

令和2年度 3学期始業式（全日制） 校長式辞

新年、明けましておめでとうございます。

2021年、丑年が始まりました。丑は、干支（えと）の十二支の動物の中で、最も動きがゆっくりで歩みの遅い動物です。なので、さきを急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年とされています。

新年が明けても、新型コロナウイルスの感染が、なかなか収まりません。私たち一人一人ができることは、マスクの着用、手洗い・うがいの徹底、検温など、やるべきことを着実にやることです。協力をお願いします。

さて、話は変わりますが、最近「SDGs」という言葉が、新聞やニュースなどで話題に上がることが増えてきました。「SDGs」、日本語では「持続可能な開発目標」とされています。

これは、国際連合（国連）が、2015年9月の会議で決めた17の目標のことです。

例えば、「貧困をなくそう」、「すべての人に健康と福祉を」、「ジェンダー平等を実現しよう」、「つくる責任つかう責任」、「気候変動に具体的な対策を」というようなものです。

これらの目標を2016年から2030年までの15年間で達成しようとしています。

あと残り10年、「誰ひとり取り残さない」の理念のもと、世界中で様々な取組を行っていますが、進み具合には差があります。

日本では、二酸化炭素など温室効果ガスの排出を2050年までにゼロにしようとする政策を打ち出しています。

1月1日、中日新聞第1面にトヨタ自動車が、電気自動車の世界展開を2022年に本格化するという記事が載っていました。これからは、ガソリン車ではなく電気自動車が主流になってきそうです。

「今を変えなければ、未来は変わらない。」2学期の終業式で紹介したラグビー五郎丸選手の言葉ですが、「SDGs」は、「このままでは、美しい地球と豊かな社会を持続的に次の世代に引き継ぐことができない。」という危機感のもとに生まれた目標です。

今を変えるのは、私たち大人の責任ですが、10年後の2030年には、皆さんは20歳台後半、その責任の一端を担うこととなります。

これから、「SDGs」の取組にどのように関わっていけるのか？10年先、20年先の社会にどのような変化を期待しているのか？

もう一度、自分自身の「今の姿」を見つめ直し、できることから行動に移してください。

「I can do it!」（私はできる!）

「You can do it!」（あなたならできる!）

丑のようにゆっくりでもよいので、目標に向かって一步一步着実に前進できることを願って、3学期始業式の式辞とします。